入選

思いやりに包まれる私

広島県　両城中学校　二年
長岡　蓮月

普段の生活の中で、自分のことを見つめ直すことがあるだろうか。自分の言動や態度を見つめ直すことを、私はしない。

仲の良い先輩といっしょに、サッカーの練習をしたときのことである。先輩の友達も数人いる中での練習だった。私は先輩の友達とは、あまり話をしたことがなかった。それに、人見知りをしてしまう性格なので、自分から話しかけることができず、ずっと黙ったままでいた。先輩の友達が話しかけてくれても、少ししか話せなかった。先輩がいっしょにいてくれたらいいのに、と思うと、顔もふてぶてしくなる。とても態度が悪かったなあ、と思う。

その後、先輩から少し怒られた。

「たくさん話しかけてもらっとるのに、ふてぶてしいままなのはだめだよ。蓮月(はづき)ちゃんのことを気にかけてくれとるのに。それに、そのときはいいよって言ってくれとっても、そのままだといつか、蓮月ちゃんのまわりから人が離れていくかもしれん。辛い思いをするのは、自分自身よ。」
と言われ、自分を見つめ直すきっかけになった。

この一件の後、私の良くないところを紙に書いてみた。人見知りをすると態度が悪くなることのほかにも、たくさん思い浮かんだ。

紙をぼんやり見ていると、これが原因でいろんな人に迷惑をかけてきたのだろう、と思った。いいよ、と許してくれた人も本当はどんな気持ちだったのかな、と考えた。私のためにと思ってくれているのに、そのことに気づかず感謝もしない。わがままばかりでいたことに気づき、深く反省した。

そして、私はいろんな人に受け入れてもらいながら、日々の生活を送らせてもらっていることにも気がついた。私の先輩のように、ときに厳しく叱ってくれる優しさや、ありがたさにも気づくことができた。

小さな親切、思いやりというのは、困っている人を助けたり、優しく接してあげることだけではない、と感じる。私の近くにいる人だけでなく、私に関わるすべての人や、様々な場面で出会う人を受け入れることが重要である。

人を受け入れていくにはまず、私自身が受け入れてもらい、優しさの中で生きていることに気づかねばならない。良いところも悪いところも、受け入れてもらえることは、当たり前のことではない。私のことを思い、向けてくれた優しさに気づくことができたとき、同じように優しくなれるのだと思う。その優しさは、小さな親切、思いやりとして表れるのだ、と私は考える。

これから先も、私は人に受け入れられながら生きていく。同じように私も、人を受け入れ、私がもらった優しさを小さな親切、思いやりの形に変えて、多くの人に優しさの輪が広がるように、普段の生活を送りたい。